

ピア・サポート活動を取り入れた学級風土作り

金澤 美由紀

学級の実態 (中学 1 年 3 3 人)

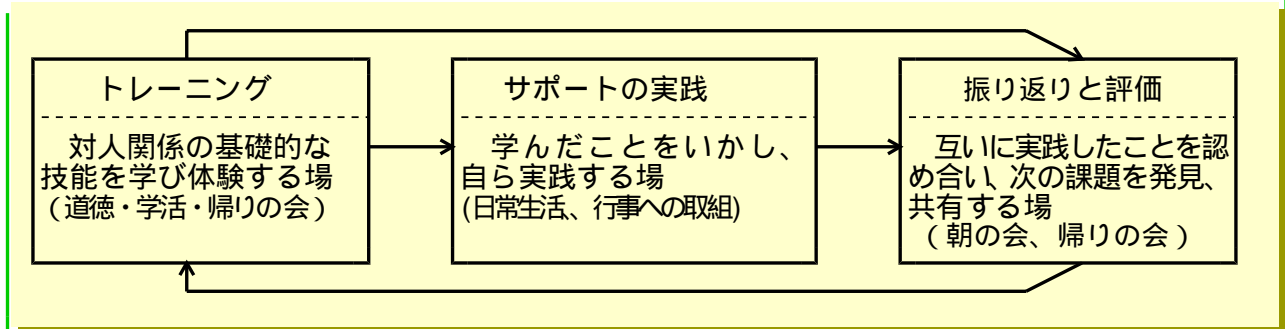
「ソーシャル・スキル尺度調査」「観察による生徒の様子」「学級の雰囲気調査」より

友達を傷つけないためには？ 友達やクラスに、自分からはたらきかけるには？

学級担任の課題 【互いを尊重し、支え合う学級風土作り】

- ・互いを尊重するコミュニケーションのスキルを学ぶ場の設定
- ・生徒同士のプラスのはたらきかけを促進するかかわり
- ・生徒同士が知り合い、認め合う場の設定

課題解決の方法 【ピア・サポート活動の実践】



目指す学級と生徒像

【互いを尊重し、支え合う学級】

- ・互いのよさを認め、互いを尊重したコミュニケーションがとれる生徒
- ・友達やクラスのために、自らはたらきかける生徒

生徒、学級の変容

実践から学んだこと

相手の気持ちを考え、行動するようになった。

生徒同士の声かけや支え合う活動が広がった。
あいさつ、励まし、誘いなどの声かけ
困ったときの手助け、相談など

周りに目を向けるようになった。

支え合う関係を促進するものは
サポートの心地よさ
身近にいる、よいモデルにふれること
周囲への関心、気づき
日頃の交流

「かかわりのスキル」と「配慮のスキル」、生徒（個人）
と学級（集団）は相互に作用し、向上していくこと

生徒は、自分の体験を通して、相手の気持ちを理解
したり、行動を変えたりしていくこと

今後の課題

互いを尊重し、支え合う関係を、広げ、深めていくために
生徒のかかわりが増えるにつれ、「配慮のスキル」も強化していくこと
かかわることの心地よさを体験する場を増やしていくこと

実践したトレーニングの流れ

[・気づき、変容 次への課題]

1 「積極的な話の聞き方」

- ・聞く態度を意識するようになった
- ・話が續かないときには？

トレーニングの補充

- ・開かれた質問、安心させる声かけが有効

帰りの会での継続的な練習

- ・聞いてもらってうれしい
- ・話しやすくなった
- ・会話が續くようになった。

2 「ふわふわ言葉・ちくちく言葉」

- ・言葉の影響力を理解
- ・日頃の言動の見つめ直し
- 「ふわふわ言葉」の
広がり、深まり

3 「プラスのストロークを贈ろう」

- ・互いの心地よさ
- ・自分や相手の長所への気づき
- 受けるときの態度
- 普段からふれあい、もっと互いのよさを見つけること

合唱コンクールに向けての取組

- ・プラスのストロークの実践
- ・友達のよいところ、がんばったところさがし

4 「プラスのストロークを贈ろう - その2」

- ・受け止め方の改善（素直な表現、感謝の言葉）
- ・具体的にほめられたことへの喜び、感謝



行動を伴うサポートへ

5 「困っている友達を支えよう」

- ・すぐに行動してもらおう心地よさ
 - ・友達の対応がよいモデル
- 困っている人に気づくためには？



6 「困っている友達に気づいて支えよう」

- ・気づいてもらうことの心強さ
- ・友達の表情や変化に気づくことの大切さ

自分から助けを求める必要性
本人だけで解決しようとしている場合もある
～ 友達の問題解決を支えるためには？

校内人権週間の取組（日常生活）
【個人プランニングと実践の記録】

～ 実践したサポート 例 ～

- ・進んであいさつをした。
- ・ひとりである子、元気のない子に声をかけた
- ・相談にのった

- ・小さなことでもサポートになる
- ・だんだんはずかしくなくなってきた
- ・これからも続けていきたい

7 「相談にのろう」

- (1) 「解決策を考える」
- ・一人で考えるより、いろいろな解決策が出てくる
 - 相談にのるのはむずかしそう

- (2) 「紙上相談」
- ・聞いてもらい、真剣に考えてもらいすっきり
 - ・相談することのよさへの気づき